

2002.2

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ「ようこそバラの街へ」
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「Shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

少年時代は漫画家になるのが夢だったという。高校卒業後も、会社に勤めながら絵を描き続けた。他人と同じことをするのが嫌いで、自分に合った表現方法を模索する日々。そんなある日、何気なく立ち寄った古本屋で衝撃的な出会いをする。十八歳の時である。「今でも思い出すと鳥肌が立つんです」と振り返る彼がその時手にした本は、切り絵で有名な滝平二郎が描いた「花さき山」(斎藤隆介・作)だった。「一つひとつの線や面すべてが大切に扱われている。これだ、と思いましたね」。以来、切り絵の製作に夢中になっていく。しかし、自己流の作品を生み出すまでには、

かなりの試行錯誤が続いた。「よく見かけられるものではなく、意表を突きたかった」と語るそのデザインは、かねてから好きだった格闘技に外国人を融合させたもの。売り込みをしても、なかなか仕事に結びつかない日々が続く。モノクロ作品に加えてカラー作品も手掛けるようになった平成十二年に自信作が完成。その作品を片手に市内のとある情報誌の編集室を訪れる。「表紙の絵を描かせてほしいと言ったんです。でも断られました」と笑う。しかし、これがプロとしてスタートした瞬間でもあった。その編集室の別の社員からチラシのイラストを頼まれたのを皮

若者のファッションの一部になつて躍動していく。そんなデザインを描き続けたい

切り絵アートデザイナー

今月の

人

原 義一さん (二九)

(菊水一条二丁目在住 ☎八二四 二〇四二)



切りに、札幌芸術の森のイベントポスターの依頼を受け、そのポスターを見た人から個展の依頼が入る。テレビ局からは番組タイトルのデザインを頼まれる。「ただ描いているだけではだめ。売り込みや自己提示センスも必要だし、何より人と人とのつながりが大事」とこの二年間の目まぐるしい変化に感慨深げだ。「ただの鑑賞用ではなく、若者のファッションの一部になつて躍動していくようなデザインが目標です」。そんな彼に、年明け早々Tシャツのデザインの仕事と個展の依頼が舞い込んだ。今年も鋭い視線でデザインナイフを握る日々が続きそうだ。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236